



OSAKA SEMBA ROTARY CLUB JAPAN W E E K L Y R E P O R T

設立 昭和63年(1988)5月23日
 事務所 〒542-0086 大阪市中央区西心斎橋1-7-3 大丸北炭屋町ビル6階
 TEL.(06)6244-1008 FAX.(06)6244-1010
 WEB. http://sembarotary.club E-mail: semba@cocoa.ocn.ne.jp
 例会 毎週月曜日・12時30分・ホテル日航大阪 Tel.(06)6244-1111
 会長 塩尻明夫 幹事 碓田隆康 会報広報委員長 岩崎寿英

四つのテスト／言行はこれに照してから I. 真実かどうか II. みんなに公平か III. 好意と友情を深めるか IV. みんなの為になるかどうか

第1399回 例会 2020年(令和2年)7月6日

本日のプログラム

(本日のプログレス 片岡 清夫 SAA)

- ロ-タリ-ソング 「君が代」「奉仕の理想」
- 会長の時間 ◎ 幹事報告 ◎ 委員会報告 ◎ ニコニコ箱報告 ◎ 出席報告
- 7月誕生月会員お祝い
- 卓話 岡本 茂 会長 藤井 宏明 幹事
- クラブフォーラム 「クラブ運営部門」 沖 真一郎 委員長
- 新年度会員懇親会 18:00~19:30
- 理事会 4階「it.oven」 16:00~16:50

前回(6月22日)例会記録

◇プログレス 俣野 富美雄 SAA

1. 来客紹介

ゲスト:0名 地区外:0名 地区内:0名 合計:0名

2. 会長の時間 塩尻 明夫 会長



皆様こんにちは。

さて、これで会長年度最後の例会となりました。

活動報告や皆様へのお礼は後半の卓話でお話しますので、会長の時間は私が個人的に感じたことを短くお話ししたいと思います。

私はクリスマス懇親会の卓話で、ドロッカーを引用してリーダーシップについて説明し、任期終了時に私自身のリーダーシップがどのように評価されるかとお話ししたいと思います。

どのように皆さまから評価頂けるかはわかりませんが、私自身が一つ分かったことは、使い古された言葉ながら「役割が人を育てる」ことだと思います。

一般企業を経営する際のリーダーシップは孤独を伴います。

例えば、経営者は悪い時に良いこと(攻め)を、良い時に悪いこと(リスクマネジメント)を考慮しておかなければならないものです。良い時(社内が好調に沸いている時)に「お前ら悪い時のことを考えろ」なんていうと？悪い時に、攻めの方針を声高に主張したら？こういう姿勢は、おのずと経営者に孤独を与えます。

しかし経営者の集団であるロータリークラブは、元々そんな孤独な人間の集まりですから、その集団のトップが本当に孤独になることはありません。このような集団でトップを務めることは、経営者としての勉強にはもってこいだと感じています。

全て終えたから言うのはずるいかもしれませんが、地区委員長や会長は是非勉強の為にトライしてみしてほしいと思います。ロータリーの勉強にはもちろんなりますし、経営者としても大きな気付きが得られます。

最後に一つ、私が常々申し上げているお願いがあります。

例会時など、国旗や国歌をたたえる機会には、必ず最大限の敬意をもって向き合しましょう。

上着をきちんと着てボタンを留め、足をそろえ、両の手を体の横にひたりとつける、この動作です。

我々の世代を中心に、こういうことを悪とする間違っただ教育がなされてきたことが問題ですが、歴史に学ぶことと国をまとめるシンボルを尊重することは全く別のことです。

また、自分の国のシンボルを尊重できない人間が、他のそれを尊重できる訳はありません。

皆が若い世代の良い手本となるよう、背中を見せていきましょう。

最後の会長の時間を終わります。

3. 委員会報告

◎ 次年度 SAA 委員会 片岡 清夫 委員長

7月13日(月)に第1回 SAA 委員会を開催させていただきます。今年はコロナの影響もありますので例会を「楽しく、元気で、為になる」ものになればと考えています。皆様のお知恵をお願いします。

4. ニコニコ報告 山川 良知 親睦委員長

塩尻 会員……皆様一年間お支え頂き誠にありがとうございます。

甚田 会員……1年間種々ありがとうございました。

片岡 会員……昨日父の日にお蔭様で72才の誕生日を迎えました。これからも皆様のお役に立てるように頑張って参りますので宜しくお願いします。

松永 会員……欠席しておりましたが、今後は出席につとめます。

新川、俣野、清水、栗原、沖、原山、山川、吉本、宮原、中嶋、井澤、北野、岩崎、松谷、岡本(茂)、岡本(真)、平山、大嶋、小山、岡野、中村、中西、伊藤、

各会員……今年度の最終例会です 色々ありましたが、皆様1年間お疲れさまでした

4. 出席報告 俣野 富美雄 SAA

会員総数 36名 出席率計算会員数 35名 出席会員数 32名 出席率 91%

第1396回(6月1日) 修正出席率 97%

5. 最終卓話

◎ 塩尻 明夫 会長



大阪船場ロータリークラブの皆様、1年間誠にありがとうございました。

本年度の開始にあたってマーク・ダニエル・マローニー国際ロータリー会長が掲げたテーマは、「Rotary connects the worlds(ロータリーは世界をつなぐ)」でした。また、四宮孝郎地区ガバナーが示されたテーマは、「Stand by you」という様々な対象に「寄り添う」ものでした。

しかし、当時我がクラブは創設以来の危機的状況にありました。ベテラン会員のご逝去、活力ある若手世代、女性メンバーの退会などにより、メンバー数の減少のみならず奉仕活動の継続自体が危ぶまれる状況と言っても過言ではありませんでした。

このような状況を熟慮した結果、私は会長年度におけるクラブのテーマをシンプルに「多様性」とし、会員それぞれの経営環境、年齢、性別や国籍、活動方針といった違いを全て受け入れ、繋がりを重視する環境づくりを目指しました。

1年間を振り返りますと、結果としてこのような方針は皆様に受け入れられ、一定の成果を上げることができたのではないかと考えております。これまでで最年少、またロータリー歴わずか10年という私が会長となったにも関わらず、様々な新しい取り組みも含め常に皆さまからは暖かいご支援、的確なアドバイスと建設的な議論を頂戴し、強い力で支えて頂けたと思います。心より感謝申し上げます。

そんな中、2020年年初より拡大しました新型コロナウイルス感染症は、せっかくの良い活動に大きな影を落とすこととなりました。3月1週目を最後に5月一杯まで休会となった例会、理事会等の会議はもちろん、水の都大阪を楽しむ親睦イベント、親クラブ大阪心齋橋の皆様との合同集会、果ては姉妹クラブであるシンガポールロータリークラブの90周年式典まで中止となってしまいました。唯一、開平小学校の30周年記念式典が多少の内容変更があったもののなんとか開催され、会長として出席できたのが救いでした。

そんな中、ロータリーはもちろん自身の企業活動すら一時的に停止し、ステイホームを続けている会員の皆様とのコミュニケーションをどのように維持すべきか悩んだ結果始めたのが「会長通信」、例会における会長の時間と同様、その週のトピックやお知らせ事項を短い文書にまとめて皆様に送付する試みです。

どれくらいの方にお読み頂けるか正直不安もあったのですが、緊急事態宣言下やその終了時、複数の方から「読んでるで！」、「いい試みや！」と好意的に評価頂いたのは、大変励みになりました。また、休会期間の終了をどのように判断し、どのように例会を再開すべきかについて方針を示し、ご理解をあらかじめ頂いたのもよい効果の一つであったと考えております。また、昨年度実現して頂いたオンライン例会を可能とする細則変更に基づき、例会のライブ配信にもトライすることができました。

さて、バリ島のタマンロータリークラブと共同で小学校へ衛生設備を寄付するプロジェクトは、新型コロナ感染症が問題となる前の2019年10月に実施することができました。台風の影響で開空からの飛行機が欠航となる中、特命委員長の岡本真太郎会員の奔走によりなんとか便を確保、日程を大幅に短縮して実施しました。今回はこれまでと異なり、澤田会員にも参画頂き、小学生への歯磨き指導を同時に実施、こちらも大変良い評価を頂きました。

恒例のクリスマス会においても、今年度はオークションの趣向を変更し、フィリピンのカオハガン島で作られる美しいキルトを販売、その収益をJDMの歯科医療奉仕活動に充当する、というチャリティ性の強化を実現することができました。会員歴がまだ浅い中無理に親睦委員長をお願いした山川委員長には、クリスマス会はもちろんそれ以外でも素晴らしい活動をして頂きました。ありがとうございました。

会員増強の側面においては、戦略委員会中村委員長、増強委員会清水委員長、そして若手会員の皆さんには強力な増強をして頂きました。候補者を集め、クラブの良さをアピールし、気持ちが覚めないうちに入会頂く、という勧誘姿勢が功を奏し、女性1名を含む3名の増強を果たすことができたのは大きな効果です。

無事ロータリー賞を頂けることになったのも、この増強が極めて大きな貢献となっております。頑張ってくれた皆様には心より御礼申し上げます。

職場見学についても大変興味深い試みがありました。見学先として清水会員のご紹介でクボタの特例子会社であるクボタサンベジファーム、清水会員経営の農場を訪問した後、農場で収穫された美味しい野菜を藤井会員の新しいホテル(it.)での懇親会の料理として頂く、という理想的な職業奉仕活動とすることができました。林委員長には新しい試みを完璧に仕上げてください、清水会員、藤井会員とともに感謝申し上げます。

以上のご報告以外にもたくさんのロータリー活動があり、多くの会員の皆様に支えられながらなんとか1年を終えることができました。若手会員の皆様の活動や、また決して表には立たないものの、ベテラン会員の皆様の裏方からの強力なご支援は本当に心強く心の支えとなりました。

また事務局の田辺さんには1年間大変お世話になり有難うございました。緊急事態宣言下でも事務局活動を的確に遂行頂いたことは本当に助かりました。

最後になりましたが、SAAの伊野委員長、幹事の甚田さんという人選には、発表当初皆様から大きな驚きをもって受け入れられたことを思い出します。しかしながら、ご覧の通り伊野委員長には正に「会場監督」に相応しい締まった例会運営を頂きましたし、甚田幹事にはチャーターメンバー、会長経験者という経験に基づき、会長として安心できる幹事としての役目を果たして頂きました。素晴らしい先輩としての的確なご意見を頂いたことも含め、ありがたく厚く御礼申し上げます。

会長、幹事、地区委員長といった重要な役目を経験させて頂き、人間的にも経営者としても大変勉強になりました。今後もこの経験をロータリー活動や経営に生かしたいと思えます。1年間本当にありがとうございました。

◎ 甚田 隆康 幹事



塩尻会長の下で、皆様のご協力のもと、幹事という大役を務めることが出来ました。会員の皆様に心から御礼申し上げます。

皆様ご承知ですが、私は昭和14年生まれで現在81歳への人生を歩んでいます。昨年の5月頃、この「じいさん」に塩尻会長エレクトは幹事になれと指名されました。私の役員歴は、20年前に武田實会長の下で幹事を務めました。10年前は会長を務めましたが、この時の幹事は昨年会長を務められた松谷廣信さんをお願いしました。そして昨年、塩尻会長はこの様な経歴と高齢を承知で幹事就任を依頼されました。

正直云って10年前、20年前は元気でしたが、80歳の今、その元気は消失しているので、お断りする気持ちでした。ところが、塩尻さんの「クラブ内で老年と若者の融和を図り、より魅力あるクラブを作りたい」という熱意に押され、「年寄り」としての依頼であればと、お引き受け致しました。

就任のあいさつで「塩尻会長の方針に従いミスや間違い、事故なく努めたい」旨を述べました。一年を経過した今、会長の意向や方針に応えられたか甚だ心もとない思いです。また、幹事として「皆様の役に立たった？十分な役目を果たした？」と云うことが気掛りです。不躰な部分があったとすれば、この場で陳謝致します。お許しください。今年の2月突然コロナウイルスが発生し、パンデミック宣言が行われ、地球規模で3密(密集・密閉・密接)禁止と、外出自粛という生活が強いられました。今は少し緩められましたが無自覚な環境は続いています。人々への自粛要請は経済活動を停止させました。その影響はコロナが治っても1929年のウォール街大暴落の経済悪化以上の落ち込みが生じ、とんでもない不景気になると考えられています。

これらの中でクラブ例会は中止を余儀なくされました。同時に会員相互の懇親や情報交換等の対応、事務局の措置に追われることに成りました。この騒動の中で塩尻会長はよく頑張られました。特にコロナウイルス外出自粛の期間中、「会長通信」を作成し田辺さんを通じて会員へ配られました。更にはロータリー賞の獲得への計画・実行等、一人で全てを行われました。これらを見ていて「やっぱり若い会長は良く動けるな」という思いを強くしました。

船場ロータリークラブは「楽しいところ(にしよう)」という意見に異論はないでしょう。塩尻会長も就任前の冒頭卓話で、参加して「楽しいクラブ」を作ることが最も重要だ、と述べて居られます。

その「楽しい」クラブ、即ち「全ての会員が楽しい大阪船場ロータリークラブ」はどうしたら出来るか？を改めて考えてみました。RCの理念は「奉仕」です。だがRC会員がまず求めるのは「親睦」でしょう。親睦が昇華して奉仕に至ると理解すると、ストンと腹に収まるのです。そして近江商人の八方よし「売り手よし、買い手よし、世間よし」に至って合点がゆくのです。

私の入会時ロータリークラブは「紳士の集まりである」と認識されていました。若年の私は先輩会員の会話や一挙一動が勉強になりました。それは年齢・環境・職業・趣味・会社等あらゆることが対象で、また、それらが学習できました。特にゴルフは熱心でした。翻って今、社会を見渡すとかなり違ってきています。若い人はゴルフをしません。自動車に興味がありません。電車で殆どの人は懸命にスマホを操作しています。失礼ながら、何しているのだろうと遠くから覗いてみると、ゲームか漫画か小説を見ているようです。新聞やラジオ等から情勢や社会の出来事を把握する必要が無いのかなあ、と思わざるを得ません。

デジタル革命が地球を覆いました。デジタルデータで作成したプログラムが世の中の「物」や「事」をコントロールするようになり、社会を変えました。プログラムは「移転・複製が全く自由、コストは低廉」で、インフラ不備の場所でも利用できます。

データ(プログラム)とパソコンと制作機械さえあれば、あらゆるものが知識や技術がなくても作ることができて、更にデータは切ったり貼ったりの操作が自由で、更に更にクラウドを通じて地球上の何処へでも瞬時に移転できるような社会です。このような今の世は、老年者には理解できない事です。

この変化に馴染んでいるのは生まれた時からデジタルに囲まれて育った若年層です。

現在70歳年以上の老年者は、日本が米国を抜いて世界一の経済大国になる、という時代に暮らし、大いにその恩恵を受けましたが、この成功体験につかり切ってデジタル時代に馴染むことが出来ません。このような社会の変化がロータリークラブ内の老年者と中壮年者の間に、お互いに遠慮するかたちで影響を与えているのではなからうかと思えます。

「楽しいクラブ」にするには、まず高齢の会員さんをお願いしたいと思います。私を含め70歳代の会員さんは18名居られます。この会員は、壮齢(60歳以下)の会員さんに興味を持って欲しいのです。壮齢会員は、クラブ・家庭・会社・社会で、何に関心が有り、何処に興味を持って居られるか、関心を持ってほしいのです。

次に、壮齢会員の皆様は高齢者と比べ自己主張が弱いのではないのでしょうか？

思ったこと、感じたこと、愉快だったこと、不愉快だったこと、何でもいからクラブ内で意思表示して欲しいと思います。

こんなこと高齢者に伝えても「鬱陶しいだけ」だと思わずに話して欲しいのです。そうすれば意思が伝わります。気持ちが分かります。表情が現れます。年齢で縦の交流が図られます。理解が深くなります。このように高齢者、壮齢者が相互に興味を持つことで仕事・遊興・運動・旅行・親睦・奉仕に関心を持ち繋がる事が出来て、相互理解の深まる活動ができるのではないのでしょうか。

私の最近の心身をお話します。加齢現象というものでしょうか？2~3年前前から身体の変調が随所に感じられます。

例えば下記のような現象です。

- ① 肉体的変化 動作が鈍感になってきました。ビニールや紙袋が破れない。
- ② 感性の劣化 食事時、料理を全部口に運んで綺麗にすました、と思っているのに、食べ物がこぼれている。その事に気付かない。
- ③ 駅の階段にエスカレーター等があれば利用しようとする。

上記と共に、新聞やTV等で知る世界の出来事に対し、日本の国は主張が弱く、また「経済・金融・財政」について施策の行方が見えない。政治家・官僚・学者は、日本がますます軽くなっていくように思われる状況を、どの様に捉えているのでしょうか？このまま「放置して良いか」という葛藤を感じるのは私だけでしょうか。

この1年間ありがとうございました。

7. 撞木引継ぎ及び会長幹事記念品贈呈

塩尻会長より岡本茂会長へ撞木が引き継がれた後、岡本茂次年度会長より塩尻会長へ、藤井次年度幹事より甚田幹事へ記念品が贈呈されました。



☆次回7月13日(月)例会予定

- ・委員会今年度方針及び活動計画
(職業奉仕、社会奉仕、青少年奉仕)
- ・第1回SAA委員会 12:00～